

第一次富士市水道事業経営戦略プラン 令和5年度取組状況

ビジョン	方針	具体的な取り組み	実施目標・施策指標	現況値 (H29)	目標値		令和 4 年度	令和 5 年度	
					値	達成年度	実績値	取組状況と課題	実績値
合理化ビジョン	1-1 施設規模適正化	(1) 配水池等の統廃合	廃止する配水池数〔池〕	0	6	令和12年度まで	0	城山 1 号・城山 3 号・城山中継槽・穴原調整槽の廃止検討を行った。	0
		(2) 施設のダウンサイジング、設備のスペックダウン	(適宜実施)	－	－	－	実施	今宮 2 号水源地送水ポンプ 1 号機および桑崎配水池加圧配水ポンプ 1 号機の取替え工事において、高効率モーター（IE3）を使用したポンプに更新した。	実施
		(3) 管路のダウンサイジング	ダウンサイジングする管路延長〔km〕	0	12.2	令和12年度まで	8.4	管路更新に合わせて、1.5kmのダウンサイジングを実施しました。	10.3
	1-2 施設及び管路長寿命化	(1) 台帳の整備 (2) 継続的な点検業務の実施	施設台帳整備	未整備	台帳整備	令和12年度まで	整備済	配水池や井戸などの施設台帳の正規化されたマスターテーブルに実データを実装し、実際のデータベースで実務レベルの動作検証を行った。また、新たな維持管理情報として、井戸の評価を行っていくための深井戸調査業務を追加実施した。	整備済
			設備台帳整備	未整備	台帳整備	令和12年度まで	整備済	ポンプや電気設備の台帳の正規化されたマスターテーブルに実データを実装し、実際のデータベースで実務レベルの動作検証を行った。また、新たに設備種別毎の保全区分と更新基準年数を見直し設定した。	整備済
			水管橋台帳整備	未整備	台帳整備	令和12年度まで	整備中	水管橋台帳の整備が完了し、令和6年度からの点検記録の保存が可能となった。	整備済
	1-3 民間活力活用	(1) 水道料金徴収	水道料金等徴収委託の拡大、推進	調査、検討	検討、方針決定	令和元年度まで	－	複数の業者がプロポーザルに参加できるよう手続きの時期を早めた業者選定スケジュールを検討し作成した。スマートメーターに関してはメーカーや徴収業務委託業者から現在の状況等、情報を収集した。	検討
		(2) 水道施設及び管路の維持管理	水道施設管理等委託の業務内容の精査	調査、検討	検討、方針決定	令和2年度まで	－	－	－
		(3) 水道施設及び管路の更新、耐震化	水道施設等の更新、耐震化における民間活力活用の検討	調査、検討	検討、実施	毎年度	調査、検討	・共同研究を行い、過去の漏水履歴や管布設情報をもとに富士水系及び神谷水系の L O F（漏水発生確率）、C O F（漏水時影響度評価）を算出し、富士水系については富士中央配水池稼働時のブロック化による有収率向上が期待できる減圧弁の有効性について検討した。	調査、検討
	1-4 業務効率化	(1) 定型業務手順の再点検及びマニュアル化	マニュアル新規作成業務数	未作成	10	令和12年度まで	4	インボイス制度が開始されたことによる事務マニュアルを新たに作成した。また、富士・富士川の両事業が統合したことにより変更となった事務や契約事務、受贈財産事務、簡易水道統合事務のマニュアル見直しを行い、最新の情報を加味した内容へと更新した。	5
		(2) 時間外勤務時間の適正化	業務効率化の推進	調査、検討	検討、実施	毎年度	検討、実施	水道事業の時間外勤務を平成29年度比で4,167時間、手当を約7,250千円削減した。要因として開発行為等の申請時に詳細な設計書を添付してもらうことによる給水工事審査に要する時間の短縮や、管網図をウェブサイト上で閲覧可能としたことによる窓口対応時間の短縮など、作業効率を向上させる取り組みを行ったことがある。一方、大規模な漏水の対応や能登半島地震に対する応急給水、復旧作業の従事などにより令和 4 年度比では時間外勤務が増加した。	検討、実施
		(3) スマートメーターの導入検討	業務効率化の推進	調査、検討	検討、実施	毎年度	調査、検討	湖西市の行っているスマートメーター実証実験について視察を計画したが、日程の都合が合わずに見送った。東洋計器からスマートメーターの費用について説明を受け、現状との費用比較を行った。ヴェオリア・ジェネッツ㈱から市内の検針困難リストの提供を受けた。	調査、検討
	1-5 収入増加及び支出削減	(1) 既存事業の見直し等による支出削減	収入増加、支出削減手法の検討	調査、検討	検討、実施	毎年度	検討、実施	布設替工事において、配水用ポリエチレン管の採用により約64,000千円の削減、管路1.9 k mのダウンサイジングにより約38,000千円の削減を行った。企業債の借入先において民間資金の割合を増やすことで利息の軽減を図った。令和 5 年度実績において地方公共団体金融機構6億（利率1.4%）、しずおか焼津信用金庫9億（利率0.03%）の借入を行ったことにより、機構のみの場合に比べて令和6年度返済利息で12,000千円の削減ができた。	検討、実施
		(2) 債券運用等による収入増加	収入増加、支出削減手法の検討	調査、検討	検討、実施	毎年度	検討、実施	平成30年度に第71回地方公共団体金融機構債 1 億円を購入し、令和5年度は利息635,000円を得た。5ヶ月の大口定期預金を 1 回実施し、利息134,452円を得た。県地震・津波対策等減災交付金を活用し、市町用防災資機材整備事業費として628,000円、富士中央配水池築造工事に対し20,000,000円の交付を受けた。	検討、実施
	1-6 事業広域化	(1) 行政経営研究会「水道事業の広域連携等」への参加	行政経営研究会参加延べ回数(回)	6	36	令和12年度まで	9	圏域別検討部会に出席し、静岡富士圏域における広域化の内容や他圏域状況の確認をした。	2
1-7 人材育成及び組織効率化	(1) 研修体制の構築及びマニュアル、対応事例の整備	外部専門研修会等への参加率〔%〕	83.5	85.0	令和元年度	41.3	外部専門研修会等への参加者は正規職員47人中22人であり、参加率は47%だった。昨今はオンライン可能な研修メニューも増えてきており、受講しやすい環境が整ってきていることが、参加率にも反映されている。事業量の増加している原水施設担当に正規職員が1人増員されるなど、適正な定数確保をに向けて進展した。各担当においては、マニュアルの整備・見直しを進め、技術力の確保に努めた。	46.8	
老朽化対策ビジョン	2-1 施設老朽化対策	(1) 物理評価点の低い施設の耐震化	更新基準を超過している施設はない	－	－	－	－	対象施設なし	－
	2-2 設備老朽化対策	(1) 更新基準年数及び事業費平準化を考慮した設備の計画的更新	更新基準年数を超過しているポンプ数〔基〕	17	0	令和12年度	16	陸上ポンプについて、点検等の状態監視の状況から、優先順位の高い 2 台（今宮2号水源地送水 1 号および桑崎配水池の加圧配水 1 号）の取り替えを行ない、更新基準年数の20年を経過したポンプは17台となった。水中ポンプについては状態監視付き事後保全により、3 台のポンプ（今宮 1 号、菟窪、矢所）を更新した。	17
	2-3 管路老朽化対策	(1) 口径75mm以上の老朽管路を計画期間内で108km更新	更新計画延長108kmに対する進捗率〔%〕	0	100.0	令和12年度	35	年間目標 9 kmに対し、9.6km（令和 4 年度からの繰越分（0.33km）を含み、令和 6 年への繰越分0.06kmを含まず。）の老朽管を更新し、進捗率は43.9%となった。	43.9

ビジョン	方針	具体的な取り組み	実施目標・施策指標	現況値 (H29)	目標値		令和４年度	令和５年度	
					値	達成年度	実績値	取組状況と課題	実績値
耐震化ビジョン	3-1 施設耐震化	(1) 配水池耐震化	配水池施設耐震化率〔％〕	48.9	61.5	令和12年度	48.9	富士中央配水池築造工事、富士北水源地さく井工事を実施した。 過年度の委託内容を精査し、曾比奈配水池は耐震性能を有していることを確認した。	48.9
		(2) 建築施設耐震化	建築施設耐震化箇所数〔箇所〕	0	10	令和12年度	0	過年度の委託内容を精査し、大淵送水場ポンプ室・岩松送水場ポンプ室は耐震性能を有していることを確認した。	0
		(3) ポンプ井・受水槽等耐震化	ポンプ井・受水槽等耐震化箇所数〔箇所〕	0	3	令和12年度	1	岩松送水場ポンプ井・岩松配水池3,500 t の更新計画を策定し、富士中央配水池運用開始後の計画を検討した。	0
	3-2 設備耐震化	(1) 伸縮可とう管の設置	水源地耐震化率〔％〕	26.3	87.8	令和12年度	39.0	管路更新工事及びポンプ更新が無いため、伸縮可とう管の設置は無し。	39.0
	3-3 管路耐震化	(1) 主要管路の耐震化	主要管路耐震化率〔％〕	33.3	74.4	令和12年度	50.5	年間目標4kmに対し、4.9kmを耐震化し、主要管路耐震化率は54.7%となった。延長には、令和４年度からの繰越分（0.73km）を含んでおり、令和６年度への繰越は無い。	54.7
有収率向上ビジョン	4-1 有収率向上	(1) 老朽管更新事業の加速化	有収率〔％〕	71.2	78.2	令和12年度	70.2	老朽管更新事業計画L=9.0kmに対し、工事実績延長L=9.62km（R4年度からの繰越分L=0.33kmを含む。）実施した。また、有収率の低い水系（富士・泉ヶ丘水系）の布設替を重点的に実施した。 事業実施を円滑に行うため、ゼロ債務負担行為（N=7件、L=4.990km、1,037,600千円）を実施した。給水管切替は908戸を実施した。	69.3
		(2) 検針時同時漏水調査						発見困難な地下漏水の可能性箇所の絞り込みを主目的とし、吉原・舟久保水系ほか２水系において32,800戸で調査を実施し、その後の追跡調査での192件の漏水箇所の発見及び修繕に繋げた。	
		(3) 長区間修繕の実施						劣化管の「部分的修繕」から「長区間修繕」を推進し、漏水の再発防止を図った。 令和5年度は、富士市水道施設管路修繕等業務委託において3件実施した。	
		(4) 河川等の伏せ越し箇所の調査及び対策						大量漏水箇所の発見に向けた取り組みの一つとして、毎年４月に実施する春堀時に、河川に流出する漏水の重点調査を実施し、漏水3件を発見した。	
		(5) 修繕緊急度の可視化						維持管理で得られる情報を蓄積・整理し、漏水調査のさらなる効率化や集積データに基づいた管路の更新箇所の選定等に活用した。	
		(6) 給水管接続調査の実施						漏水修繕の際に、管路調査を同時に実施し、不適切な接合等は発見されなかった。	
簡易水道統合ビジョン	5-1 簡易水道統合	(1) 配水池建設	配水池の整備数〔池〕	0	1	令和12年度まで	0	配水池の詳細設計、埋蔵文化財の本調査を行った。	0
		(2) 水源地整備	水源地の整備数〔箇所〕	0	2	令和12年度まで	0	吉永１号水源地さく井に向けて、揚水設備設置届を県に提出し、承諾を受けた。	0
		(3) 管路整備	整備延長6.55 k mに対する進捗率〔％〕	0	100.0	令和12年度	39	令和５年度は0.65kmの管路整備を実施し、進捗率は49.0%となった。	49
水道庁舎更新ビジョン	6-1 水道庁舎更新	(1) 本庁舎更新時の移転検討	本庁舎への移転検討	平成30年度県総合庁舎へ移転	検討	令和12年度まで	検討	現執務室（富士総合庁舎6階）の令和5年度から令和9年度末までの建物定期賃貸借契約を行った。	検討
サービス向上・水道水 利用促進ビジョン	7-1 サービス向上	(1) 水道料金収納方法の拡大	電子決済による納付の検討	なし	検討	令和2年度まで	－	現在の電子決済はLINEPay・Paypayの二種類であるが、種類を増やすことについて検討した。	検討
		(2) 多言語への対応	各種申請書等の多言語化	なし	検討	令和元年度まで	－	－	－
		(3) 積極的な広報活動の推進	新たな広報媒体の検討	なし	検討	令和元年度まで	実施	facebook「こんにちは。富士市上下水道部です」を7回投稿した。	実施
	7-2 水道水利用促進	(1) 出前講座、イベント参加等による広報	富士市の水が安全と思う人の割合〔％〕	75.0	90.0	令和12年度	79.2	水道出前講座を30回実施し、1,087人に水道のしくみ等を講義。環境部で主催するブナ林創造事業、ふじBousaiにも参加した。	79.2
			富士市の水がおいしいと思う人の割合〔％〕	89.0	95.0	令和12年度	89.5	水道出前講座を30回実施し、1,087人に水道のしくみ等を講義。環境部で主催するブナ林創造事業、ふじBousaiにも参加した。	89.5
			富士市の水に満足だと思う人の割合〔％〕	72.0	90.0	令和12年度	73.5	水道出前講座を30回実施し、1,087人に水道のしくみ等を講義。環境部で主催するブナ林創造事業、ふじBousaiにも参加した。	73.5
災害対応ビジョン	8-1 災害対応	(1) 水道業務継続計画の見直し、防災訓練の実施	水道業務継続計画に基づいた防災訓練の延べ実施数〔回〕	0	12	令和12年度まで	4	水道週間において断水被害を想定した作業訓練として、応急給水訓練・配水管ブロー訓練を実施した。また、総合防災訓練において大規模災害を想定した各種訓練を行った。	5
	8-2 災害対応広報	(1) 給水車及び非常用給水栓使用訓練実施	給水車及び非常用給水栓の使用訓練の延べ実施回数〔回〕	0	12	令和12年度まで	4	総合防災訓練以外に給水車用給水栓の組立訓練の実施とふじBousai2023などのイベントで給水車を使用した。	5
		(2) 水道事業広報紙等による啓発	災害時用飲料水を７日分備蓄している世帯の割合〔％〕	4.0	60.0	令和12年度	9.0	上下水道部各課の担当職員により編集会議を開いて「たっぷり上下水道情報局」を作成、全戸配布することにより、防災広報を行った。	9.0
		(3) 災害時用飲料水備蓄啓発用ペットボトル配布						水道週間街頭広報で158人、出前講座(30回)で1,176人、また、希望する市主催の事業で2,684人に配布した。（計4,018人）	
		(4) 災害時用飲料水袋配布						水道週間街頭広報で158人、出前講座(30回)で1,176人、ふじBousai2023で172人に配布した。	